

令和5年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

- (1) 都立府中西高等学校 学校運営連絡協議会
- (2) 事務局の構成 事務局長＝総務主任、総務部員3名 計4名
- (3) 内部委員の構成
校長、副校長、経営企画室長、分掌主任（教務、生活指導、進路指導、総務）、
学年主任3名 計10名
- (4) 協議委員の構成
地域教育委員会1名、地域有識者（自治会役員等）2名、学識経験者（大学教員）、PT
A会長、同窓会長、近隣中学校長、青少対地区代表、消防署管轄出張所長 計9名

2 令和4年度学校運営連絡協議会の概要

- (1) 学校運営連絡協議会の開催日時、内容、その他
第1回 令和4年7月7日 午後4時（内部委員9名、協議委員7名）
議事（報告事項）①協議委員及び評価委員の選出・委嘱等②前年度学校経営報告及び今
年度学校経営計画③本校の現状と課題等説明 ほか意見交換
第2回 令和4年10月26日 午後3時30分（内部委員10名、協議委員7名）
議事（報告事項）①今年度の教育活動に関する報告②学校評価の実施内容提案 ほか
第3回 令和5年2月16日 午後4時（内部委員7名、協議委員7名）
議事（報告事項）①今年度の教育活動に関する報告②学校評価の実施結果及び分析結果
の報告 意見交換 ほか
- (2) 評価委員会の開催日時、会場、出席者、内容、その他
第1回 令和4年10月26日 午後3時（内部委員4名、協議委員1名）
議事（報告事項）①学校評価の基本方針の確認②昨年度の学校評価結果の分析・考察
③今年度の実施に向けた評価の観点及び項目、内容の検討 意見交換 ほか
第2回 令和5年2月16日 午後4時（内部委員4名、協議委員1名）
議事（報告事項）①アンケート集計の結果報告、分析報告②考察及び課題の整理、次年
度に向けた改善提案 意見交換ほか

3 学校運営連絡協議会による学校評価（学校評価報告）

- (1) 学校評価の観点
①授業、教育課程の充実 ②生活指導の充実 ③進路指導の充実
④特別活動等の充実 ⑤校生活全般の充実 ⑥学校への理解
- (2) アンケート調査の実施時期・対象・規模
①実施時期 令和4年11月下旬から令和5年1月初旬までの約1か月間
②実施方法 オンラインツールの活用（Microsoft Forms®）
③規模及び回収率

属性	対象者数（人）	回答数（人）	回答率（%）
生徒	896	793	89
保護者	896	423	47
地域・住民	100	35	35
教職員	53	41	77

- (3) 主な評価項目
学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全、
施設・設備、ライフ・ワーク・バランスの推進など
- (4) 評価結果の概要（考察）
①学習指導

授業内容や評価、生徒対応への満足度は昨年を引き続き比較的高い傾向。教員の努力

が生徒や保護者によく伝わっている。一方で、家庭学習が不十分であり保護者も生徒も自覚がある。基礎学力向上のために家庭学習は欠かせない。課題、補習及び補講など、学習習慣定着のために教科や学年を問わず、連携していくことが必要。

②生活指導

本校の生活指導は、他校と比べて丁寧に行われていると考えられる。生活指導に関しては、保護者から70%以上の支持率を得ているが、生徒・保護者の中には厳しいと不満をもつ者も多い。「生徒指導ルールの多さ」が書かれており、学校の方針のぶれが感じられる。きちんと生徒・保護者の納得するルール作りをしていく必要がある。

③進路指導

進路指導に関しては肯定的回答が多い。本校生徒の進路希望は多岐にわたる。生徒自身が主体的に自己の進路を考え、決定する能力を身に付けさせる。

④特別活動

例年、肯定的回答が多い。教職員、生徒・保護者に学校生活全般に関する満足度も高い。

⑤その他

学校生活に関する保護者の意見を聞き取り、しっかりと向き合っていく必要がある。また、生徒からの意見やそれを踏まえた新たなルール作りを行い、共に学校生活を考える機会を設けていく必要がある。また施設の改修についても困難ではあるが進めていかねばならない。

(5) 評価結果の分析・考察（校長や学校全般への意見・提言）

全体的に、本校の教育方針や教育活動等が概ね理解されている。一方で保護者、生徒及び教職員の肯定的回答に開きがある質問項目がみられ、保護者の「わからない」という回答項目も目立つ。本校の情報発信の工夫が必要である。進路希望の実現、特に大学進学を目指す生徒にとって、授業や補習のみでは不十分であり、家庭学習が不可欠である。生徒指導に関しては、保護者から疑問が表れた結果となっている。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題（学校の自己評価へ反映）

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

アンケート結果から、改善に向けた課題を共有することに繋がっている。

(2) 学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

保護者に対して、学校教育活動の理解促進を継続して行う必要がある。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項（学校経営計画へ反映）

(1) 学校運営

生徒及び保護者に対して、学校の教育活動や教育方針の理解促進を図る。すべての教職員が課題を共有。解決提案を検討し、改善を図る。

(2) 学習指導

家庭学習習慣の改善。ICTを活用した授業の推進など、新たな授業形態に対応できるよう研修機会を設ける。

(3) 特別活動

実施方法や実施形態は、既成概念にとらわれず創意工夫する。部活動の充実を図る。

(4) 生活指導

丁寧な指導と生徒の内面にはたらきかける指導を継続する。教職員の温度差を解消する。

(5) 進路指導

入学時から計画的な指導を実施。きめ細やかな指導体制の確立。進路情報の整理、活用。

(6) 健康・安全

①安全教育三要素（防災、生活、交通）を計画的に推進する。②生命を尊重した教育、人権を尊重した教育を行う。

6 「学校が良くなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 9人（外部）

(2) 学校が良くなったと答えた協議委員の人数

そう思う	多少そう思う	どちらとも言えない	あまりそう思わない	そう思わない	分からない	無回答
1	6	2				

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】職員会議 参加なし 企画調整会議 参加なし

8 その他

アンケート集計を効率的に行うため、インターネットを活用したMicrosoft Forms®を導入している。Microsoft Forms®は、生徒、保護者及び教職員が日常的に利用しているツールであり、混乱なく円滑に実施することができた。協議委員の構成については、学校の状況に応じて変更する時期にきている。在京外国人選抜を開始して8年目となり、この分野での有識者を加えて、協議内容を充実させていきたい。

以上